伊達の歴史

The History of Date

伊達を知る2つの時代

B.C. 7,000　縄文時代~

遺跡に見る噴火湾地域の特質

太古から人が住み続ける豊かな地域

伊達市に人が住み始めたのは今から約九千年前だということが、北黄金貝塚などから発見される土器によってわかっています。彼ら縄文人は魚介類やオットセイといった噴火湾の豊かな恵みに支えられ、独自の文化を育んできました。伊達市には縄文時代を中心とした貝塚が多数あり、全道の貝塚の五分の一が集中しています。

この海洋依存型ともいえる生活形態はその後の続縄文期や中・近世のアイヌ文化期、そして現代まで受け継がれてきた地域の特徴と言えます。

噴火湾縄文人と本州縄文人の食生活の違い

噴火湾縄文人の食生活が本州の縄文人と大きく異なることが最近の研究で明らかになりつつあります。本州ではドングリやクリなどデンプン質を多く食べていたため虫歯がとても多いのに対し、噴火湾ではデンプン質をほとんど含まない海産物に頼った食生活であったため虫歯が少なかったそうです。一方で土器や石器、儀礼に使う道具類などは本州のものと類似しています。北海道の縄文人は本州の人々と世界観や文化を共有しながらも、本州に弥生文化が広まっても稲作農耕はせず、海産物中心の食生活を続けました。この文化の違いが、本州と北海道の歴史の分かれ道になったのです。

1869~　明治時代~

武将・伊達家と伊達市開拓の歩み

伊達開拓の祖「亘理伊達家」の歴史

伊達市、引いては北海道を開拓した「亘理伊達家」は、古くは藤原鎌足の流れをくむ仙台藩伊達家の一門として、戦国武将、伊達成実を家祖とする名門の家柄です。

仙台藩祖伊達政宗より1歳年下の成実は、戦乱の世の中を政宗の右腕として活躍した人物で、領地は現在の宮城県亘理町一帯に2万4千余石を有していました。

明治三年、伊達邦成による伊達市開拓の始まり

一時代を築いた亘理伊達家でしたが、明治維新の戊辰戦争で官軍に敗れ、領地と士族をはく奪された当時の15代当主・伊達邦成は、残された家臣の窮地を救おうと画策し、新政府に掛け合い、「胆振国有珠郡支配」（現在の伊達市）を許されました。

邦成は明治3年に家臣とその家族250人と共に伊達に到着。その年の4月17日、自らが鍬をふるってスモモ苗を植え、伊達市の開拓が始まりました。その後も邦成は統制と指導を続け、明治14年までの間に計9回、約2700人の家臣たちが移り住み、伊達市の開拓に貢献しました。この開拓の功績が認められ、邦成は明治18年に士族復籍を果たし、さらに明治25年には男爵を授けられました。

伊達市は昭和56年、亘理町とふるさと姉妹都市の締結をしましたが、これは、先人の労苦を偲び、同胞としての深い契りを永遠にとの願いを込め、邦成が初鍬を下した4月17日に締結されました。

1869~　明治時代~

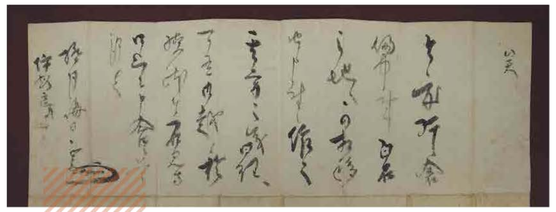
開拓の歴史を語り継ぐ宝物

だて歴史文化ミュージアムや大雄寺には亘理伊達家由来の宝物が数多く所蔵されており、そこから当時の歴史や状況を鑑みることができます。

【名刀】
伊達家に代々伝わる名刀。太刀は長光作、短刀は貞吉作で、共に鎌倉時代のもの。

【香炉と香炉台】
1592年、政宗、成実が文禄の役に出兵した際に持ち帰った香炉と香炉台。香炉は南蛮鉄製。

【伊達成実の甲冑】
兜に施された、前立ての毛虫は決して後退りしないことの象徴。



【政宗書状】
成実が政宗より亘理郡移封を命ぜられた書状。日付は慶長七年十二月晦日。

西暦年　19世紀

本　州

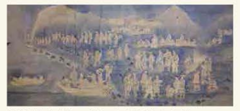
北海道

明治時代~

北海道および伊達での出来事

年	出来事
1885年	亘理伊達家中の士族復籍を認可、士族契約会を結成
1880年	日本初の甜菜製糖所が完成
1876年	伊達移住者の中から琴似・山鼻屯田兵に参加、西南戦争へ出征する者が現れる
1875年	紋鼈郵便局・官立紋鼈病院が設置される
1872年	官立郷学校（現在の伊達小学校）が開校
1870年	第一回移住者が到着、開拓を始める
1869年	戊申戦争後、開拓使が設置され蝦夷地が北海道と改められる 伊達邦成が太政官から北海道開拓移住の許可を受け、有珠（伊達）の支配を命ぜられる

琴似屯田歴史資料館では当時の貴重な資料が展示されています



【小野 潭作　第一回移住の図】

伊達 邦成

COLUMN

開拓期、伊達と札幌の意外な接点。

屯田兵は普段は農業に従事し、有事の際は兵士として北海道警備の使命を担っていました。その中には伊達家臣団の出身者も含まれています。とくに山鼻・琴似に移住した伊達家臣団は157名であり、彼らの活躍で北海道の開拓はさらに大きく進むことになりました。明治以前は兵農を兼ねた武士として生活していた亘理伊達家中にとって、屯田兵として活躍することは武士としての志を保つことができたのでした。現在でも札幌市西区琴似にある「琴似屯田兵村兵屋跡」（国指定重要文化財）は伊達家臣団、清野専次郎が居住していた住居です。また、琴似神社はこのとき入植した伊達家臣団によって建てられました。

【亘理伊達家に伝わるお雛様】
寛永雛をはじめ、享保雛、次郎左衛門雛等の内裏雛の他、巧緻な細工の雛道具多数。

【貝合せ】
蛤貝360個を一組とし、神経衰弱ゲームのように多く集めて競う遊び。嫁入り道具として重要な役割を持っていました。

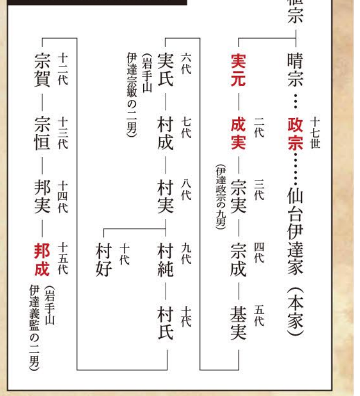
COLUMN

伊達市開拓の祖・邦成と、アイヌ民族との関係

伊達 邦成

明治3年3月29日、伊達邦成以下250人を乗せた政府の長鯨丸は、松島湾を出港し室蘭に着いたのは4月6日。まだ雪深い北海道の地で、邦成らを迎えたのは、熊の毛皮の胴着に山刀をさしたアイヌの人たちでした。
初めて見るアイヌの人たちの姿に驚きましたが、荷物を運んでくれるなど、とても親切でした。一行が有珠で宿泊する際には、白米のご飯と有珠湾でとれたアサリのみそ汁で歓迎したといわれています。邦成は家臣らに対して常に信義、礼儀、はじを知ることをもって生活し、アイヌの人たちと平和なつき合いをするよう命じました。その精神は伊達のまちづくりに、現在も生き続けています。

亘理伊達氏略系



だて歴史文化ミュージアム
2019年に開館。
伊達市の歴史・文化を総合的に展示しています。

住 伊達市梅本町57-1　TEL 0142-25-1056